

平成21年度 病院事業会計予算概要

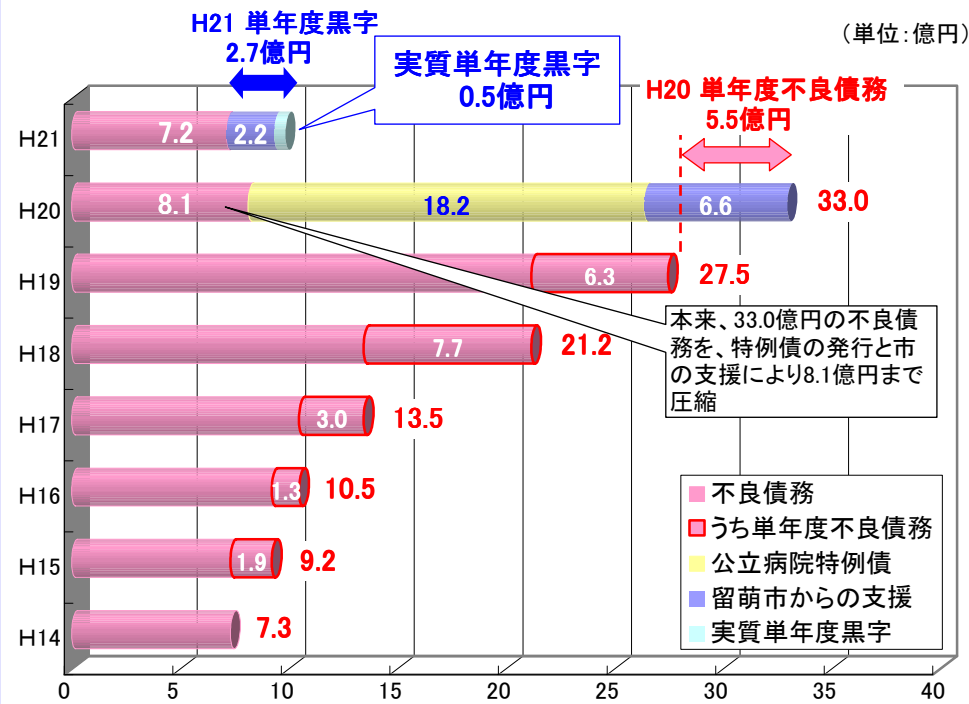
平成21年度の病院事業会計予算は、平成21年1月に策定した「留萌市立病院改革プラン」に基づき、収入の確保と費用の抑制を進め、単年度収支均衡を最大の目標として編成を行いました。

収入の確保につきましては、これまで行ってきた医師確保活動が実を結び、脳神経外科と皮膚科で固定医師を確保することができ、入院診療を再開・拡大可能となることで患者数の増加が見込まれ、診療収益を本院・沖見診療所合わせて43億1千万円とし、H20年度決算見込みの38億2千万円と比べて4億9千万円の増収を見込みました。また、市から公立病院特例債元利償還に対する支援分の繰入金増額などにより、事業収益の合計は53億円となり、H20年度決算見込みと比較して8億2千万円増額となります。

一方費用では、医師や患者数の増により人件費や材料費など増加する費用もありますが、職員給与の独自削減率の拡大などによる給与費の減で1億7千万円、固定医確保に伴う出張医委託料の圧縮で5千万円、施設保守関係の委託契約内容見直しなどにより1千万円縮減し、事業費用合計ではH20年度決算見込みと比較して5千万円減額し、53億8千万円となりました。

この結果、資本的収支において生じている2億5千万円の不足額を差し引いても、最大の目標としている病院事業単独での単年度資金収支(市からの特別支援を除いた収支)は、5千万円の黒字達成となる予算編成となりました。

☆収支(不良債務)の推移☆



※H20は決算見込み
各項目で端数処理しているため、合計が合わない場合があります

☆主な収支改善の内訳☆

税込みで表示 (単位: 億円)

項目	21予算	20見込	差引	内容
入院・外来収益	43.1	38.2	4.9	・医師増 脳神経外科、皮膚科の固定医化など 年度末医師数 25人 31人 ・延べ患者数 211,333人 225,411人
職員給与費 (保育含む)	23.9	25.6	1.7	・独自削減率の拡大 7% ~ 16% 20% (医師除く) ・特殊勤務手当の一部廃止
出張医委託料	1.9	2.4	0.5	・固定医の増による委託日数の減 2,247日 1,872日
施設関係委託料	1.3	1.4	0.1	・契約内容の見直し

☆実質収支比較☆

(単位: 億円)

区	分	H21	予	H20	見	増	減
事業収益計			53.0		44.8		8.2
事業費用計			53.8		54.3		0.5
収支差引			0.8		9.5		8.7
資本的収支差引			2.5		22.0		24.5
内部留保資金			6.0		6.8		0.8
単年度資金収支			2.7		19.3		16.6
+							
特別支援等			2.2		24.8		22.6
実質単年度資金収支	-		0.5		5.5		6.0

収益的収入の状況

病院事業の収入は、みなさんの入院料及び外来診療料等によりまかなわれています。内訳は、下記のとおりです。

税抜きで表示

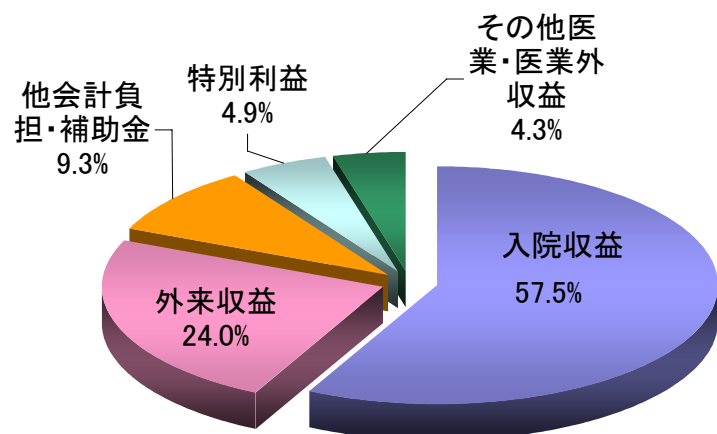
(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成21年度		平成20年度	比較増減	増減率
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	C (A - B)	C / B
入 院 収 益	入院料など	3,044,349	57.5	2,826,354	217,995	7.7
外 来 収 益	本院及び診療所の外来診療料など	1,267,046	24.0	1,340,702	73,656	5.5
他会計負担・補助金	留萌市からの負担金・補助金(繰入金)	491,243	9.3	440,170	51,073	11.6
その他医業収益	室料差額、健康診断料、診療所の交通費実費分など	169,317	3.2	144,722	24,595	17.0
医業外収益	道補助金、職員給食費・保育料など	56,323	1.1	44,954	11,369	25.3
特別利益	資産の売却益など(21年度は特例債元金償還支援)	260,616	4.9	1,501,273	1,240,657	82.6
合 計		5,288,894	100.0	6,298,175	1,009,281	16.0

前年度当初予算と比較して、内科や眼科で固定医が減り外来患者数の減少が見込まれますが、入院患者の受入ができなかった皮膚科で入院診療が可能になることや脳神経外科の固定医化、外科においても医師が増えることにより入院患者数の増加が見込まれるため、入院・外来収益は1億4千万円の増収となっています。また、その他医業収益においても2千万円の増加となっています。

留萌市からの支援に関しては、前年度にルール化した救急、小児・周産期医療への繰入に加え、平成20年度に発行した公立病院特例債の元利償還金支援の増加はありますが、15億円の特別支援が減少していますので11億9千万円の減少となり、これにより収益的収入の合計では10億1千万円の減少となっています。

☆収益的収入の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

本 院 入 院 収 益	患者数の増 12,282人 217,996の増収 (脳神経外科、皮膚科医師増)
本 院 外 来 収 益	患者数の減 △13,781人 76,656の減収 (内科、眼科医師減)
他会計負担・補助金	留萌市からの繰入金 (公立病院特例債利子償還支援 35,233)
その他医業収益	初診時選定療養費の増 11,280 産科医療補償制度保険料 6,450
医業外収益	道補助金の増(産科医療関係 11,405)
特別利益	公立病院特例債元金償還支援 260,616 留萌市からの特別支援の減 △1,500,000

収益的支出の状況

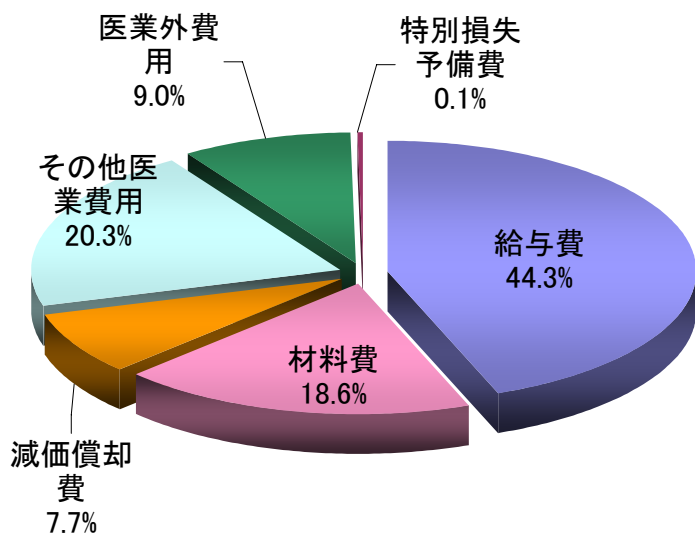
職員の給料、医薬品購入等の病院事業を運営するために必要な経費です。内訳は、下記のとおりです。
税抜きで表示

(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成 21 年 度		平成 20 年度	比較増減	増減率
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	C (A - B)	C / B
給 与 費	職員の給料・手当など	2,376,423	44.3	2,600,223	223,800	8.6
材 料 費	薬・注射・診療に用いる材料・給食材料など	999,091	18.6	1,059,109	60,018	5.7
減 価 償 却 費	建物や機器などの減価償却	412,543	7.7	479,386	66,843	13.9
その他医業費用	診療委託料(出張医)・施設維持管理経費など	1,089,568	20.3	1,013,410	76,158	7.5
医業外費用	企業債(借入金)利息・保育施設経費・患者搬送費など	483,039	9.0	496,714	13,675	2.8
特別損失	貸付金償還免除費	5,400	0.1	9,000	3,600	40.0
予 備 費		2,857	0.0	2,857	0	0.0
合 計		5,368,921	100.0	5,660,699	291,778	5.2

前年度当初予算額と比較して、給食業務委託料や医療器械借上料の増加によりその他医業費用が8千万円増加していますが、職員給与の独自削減率の見直しなどにより給与費が2億2千万円、給食業務の委託化やフィルムレス化の導入になどにより材料費が6千万円、また、移転改築の際に更新した医療器械の一部の償却が終了したことで減価償却費が7千万円減額となり、収益的支出合計で2億9千万円の減額となっています。

☆収益的支出の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

給 与 費	給料独自削減率見直しによる減 △193,177、特殊勤務手当一部廃止 △32,325
材 料 費	給食業務委託化に伴う職員材料費の減 △41,892、フィルムレス化に伴うX線材料費の減 △39,956
減 価 償 却 費	器械及び備品償却費の減 △66,843
その他医業費用	給食業務委託料 120,844、医療器械借上料の増 28,518、出張医日数の減 △74,249、施設保守委託の見直し △10,211
医 業 外 費 用	一時借入金利子の減 △31,000、企業債利子の減 △6,839、公立病院特例債利子の増 35,233、退職給与費償還費の減 △8,538
特 別 損 失	貸付金償還免除費の減(2人減) △3,600

資本的収支の状況

資本的収支とは将来の経営活動に備えて行う医療機械の購入・施設整備やそれにかかる企業債の元金償還、勸奨や定年退職者の退職金などの支出とその財源になる借入金や企業債償還のための留萌市からの出資金などの収入のことをいいます。内訳は、下記のとおりです。

☆資本的収入☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成21年度		平成20年度	比較増減	増減率
		予算額 A	構成比	当初予算額 B	C (A - B)	C / B
企業債	企業債(借入金)	50,000	8.7	0	50,000	皆増
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金、負担金・補助金(繰入金)	525,473	91.3	302,990	222,483	73.4
その他	固定資産売却代金・貸付金償還金		0.0	1,010	1,010	100.0
資本的収入合計		575,473	100.0	304,000	271,473	89.3

☆資本的支出☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成21年度		平成20年度	比較増減	増減率
		予算額 A	構成比	当初予算額 B	C (A - B)	C / B
建設改良費	医療器械の購入・施設整備など	55,970	6.8	0	55,970	皆増
企業債償還金	企業債の元金償還金	703,425	85.3	440,423	263,002	59.7
繰延勘定	勸奨や定年退職者の退職金	51,597	6.3	108,804	57,207	52.6
その他	修学資金・研究資金貸付金など	13,280	1.6	4,360	8,920	204.6
資本的支出合計		824,272	100.0	553,587	270,685	48.9
収支差引		248,799	-	249,587	788	0.3

平成21年度には、企業債(借入金)を財源とした医療器械やシステムなどの更新を見込んでいます。
このほか前年度当初予算と比較して、留萌市から不良債務解消のための特別支援により、他会計補助金が2億2千万円増加し、退職者が減ったことにより退職金が6千万円減少していますが、公立病院特例債の元金償還の増などで企業債償還金が2億6千万円増加しているため、収支においてはなお2億5千万円の不足が見込まれます。

☆主な増減内訳☆

<収益> (単位：千円)

企業債	医療器械等整備事業債	50,000
他会計出資・負担・補助金	留萌市から不良債務解消のための支援の増	220,000
その他	固定資産売却件減	△1,010

☆主な増減内訳☆

<費用> (単位：千円)

建設改良費	医療器械更新(企業債充当)	50,000	備品等年割賦購入	5,500
企業債償還金	公立病院特例債元金償還の増	260,616		
繰延勘定・その他	退職者の減(3人減)による退職給与金の減	△78,086	留萌市への退職手当負担金の増	20,879
	貸付金対象者の増	8,920		

企業債(借金)残高及び元利償還(返済)の状況

企業債とは、建設改良事業(病院の場合は病院や医師住宅の建設、医療機器の購入など)に要する資金に充てるため、事業を行うにあたり資金が不足している場合に起こす地方債(借金)のことです。

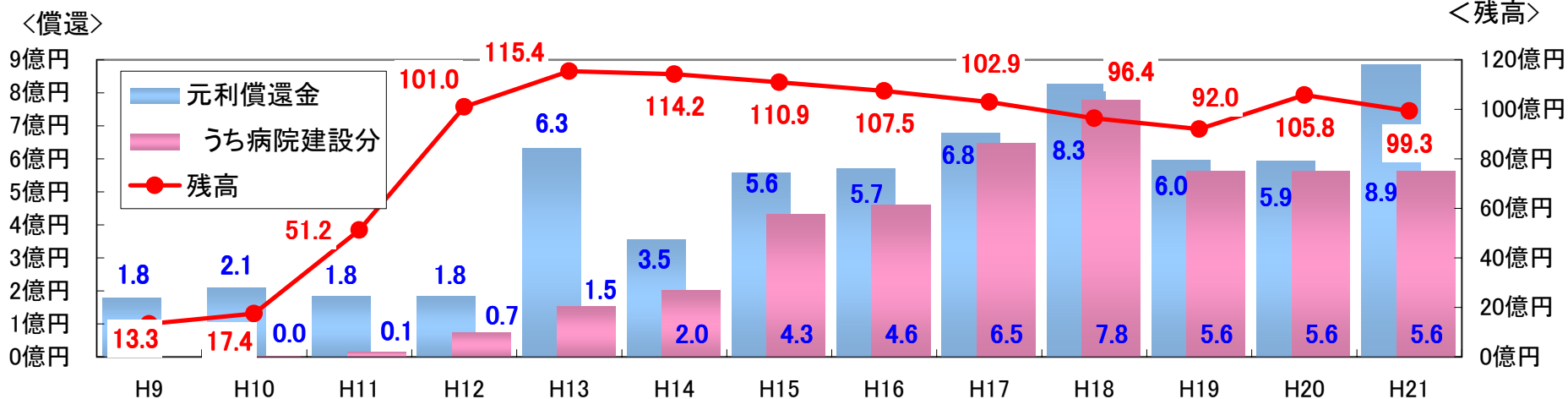
市立病院の元利償還(返済)金は、病院建設事業のために借り入れた企業債の返済が本格化したために年々増加し、平成18年度に約8億3千万円というピークを迎えました。平成20年度には公立病院特例債(18億2,430万円)を発行したことにより一時的に残高が増えましたが、導入する医療器械等について病院内で精査し適切な更新・導入を行い、建設改良事業を抑制していますので、残高は緩やかに減少していきます。

☆企業債償還金及び残高の推移☆

(単位：百万円)

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
元金	141	166	138	138	462	172	377	394	504	659	436	440	703
利子	40	44	47	47	170	182	181	178	174	169	161	154	183
元利償還金	181	210	185	185	633	355	558	572	678	827	597	595	886
うち病院建設分	0	3	14	75	152	202	432	461	649	778	563	563	563
残高	1,331	1,744	5,124	10,098	11,544	11,419	11,092	10,748	10,294	9,635	9,200	10,583	9,930

☆企業債償還金と残高の推移☆



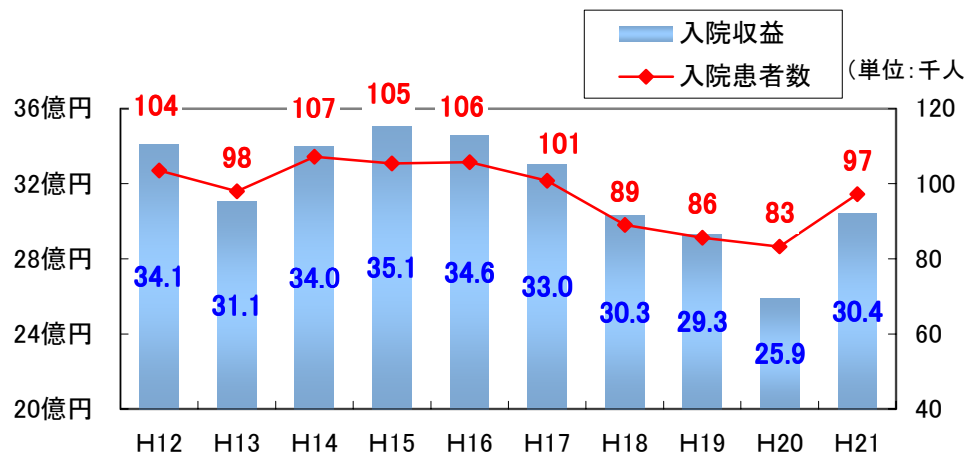
※H13は新病院完成に伴い、旧施設処分にかかる繰上償還(2億64百万円)を実施しているため一時的に償還額が増えています

患者数及び入院・外来収益の推移

患者数は、平成16年度から実施されている医師の新臨床研修制度の影響から、大学病院医局の医師派遣事情により固定医が確保できない診療科が増え始めたことにより毎年度減少し続け、平成20年度においては入院患者は療養病棟が本格稼働しているにもかかわらず8万3千人にまで減少、外来においても出張医への診療体制縮小が大きく影響して12万8千人となり、平成12年度のおよそ半分にまで落ち込むことが予想されますが、平成21年度は、外来こそ内科、眼科の固定医の減により横ばいで推移しますが、入院患者は、皮膚科、脳神経外科の固定医の確保などにより入院診療を再開・拡大することで、平成20年度見込みより14%増の9万7千人を見込んでいます。

収益においても、外来は減収ですが、入院においては平成20年度見込みより18%増の30億4千万円で3年ぶりに30億円台への回復が見込まれます。

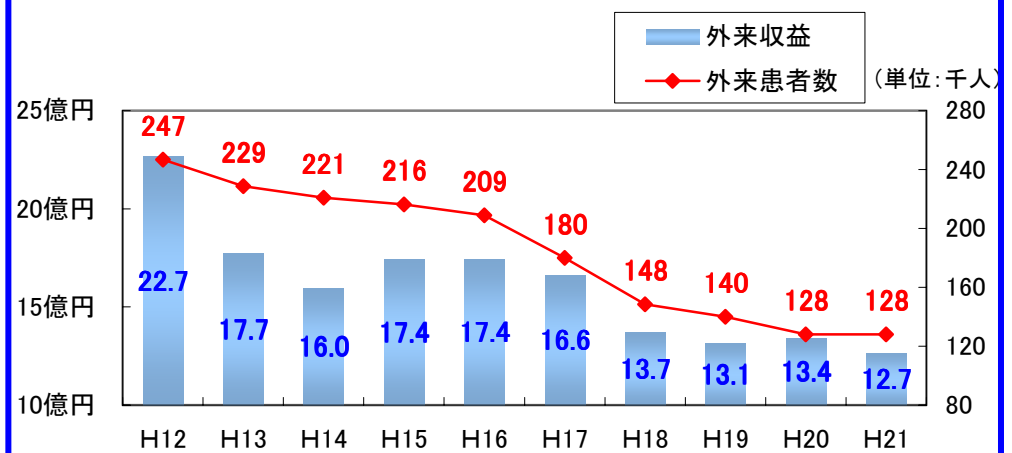
☆入院患者数・収益の推移☆



- ・平成13年度 新病院への移転に伴う入院患者調整
- ・平成14年度 新築効果による患者数の増
- ・平成15年度 診療報酬マイナス改定による減収
長期入院患者の減による延患者数の減
看護体制充実などによる診療単価の上昇
- ・平成16年度 形成外科入院診療休止、産婦人科体制縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科入院診療休止
- ・平成18年度 呼吸器科入院診療休止、循環器科体制縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
11月より療養病棟（50床）開設
- ・平成20年度 循環器科入院診療休止
- ・平成21年度 皮膚科入院診療再開
脳神経外科入院診療拡大

H13～H19は決算、H20は決算見込み

☆外来患者数・収益の推移☆



- ・平成13年度 新システムの始動に伴う患者制限
院外処方拡大による診療単価の減
- ・平成14年度 長期投薬解禁に伴う再来患者数の減
診療報酬マイナス改定による減収
- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制の縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制の縮小
- ・平成18年度 循環器科、呼吸器科の診療体制の縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
10月より在宅支援診療所開設
- ・平成20年度 在宅診療本格稼働

H13～H19は決算、H20は決算見込み

予定貸借対照表 ～バランス・シート～ (平成22年3月31日)

貸借対照表とは、一定時点における会計の財政状況を示す一覧表のことで、「資産」と「負債」「資本」を対照表示することによって、会計の財政状況を明らかにする財務諸表です。資産合計と負債資本合計が必ず一致し、表の左右のバランスがとれるのでバランスシートとも呼ばれます。

※資産の部の未収金が約8億円もありますが、この中には月遅れで入金される保険者(社会保険や国民健康保険など)からの収益や道からの補助金などが含まれています。

☆資産の部☆

区分	金額
1 固定資産	
(1) 有形固定資産	
イ 土地	518,754
ロ 建物	5,935,762
ハ 構築物	128,207
ニ 器械及び備品	347,904
ホ 車両	629
ヘ 建設仮勘定	0
有形固定資産合計	6,931,256
(2) 無形固定資産	
イ 電話加入権	1,858
無形固定資産合計	1,858
(3) 投資	
イ 看護師修学資金貸付金	29,350
ロ 看護師研究資金貸付金	4,000
投資合計	33,350
固定資産合計	6,966,464
2 流動資産	
(1) 現金預金	14,867
(2) 未収金	804,405
(3) 貯蔵品	36,516
(4) 前払金	0
(5) 仮払金	0
流動資産合計	855,788
3 繰延勘定	
(1) 退職給与金	397,525
(2) 控除対象外消費税額	290,975
繰延勘定合計	688,500

(単位：千円)

資産合計 8,510,752

☆負債の部☆

区分	金額
4 固定負債	
(1) 公立病院特例債	1,563,684
(2) その他固定負債	20,952
固定負債合計	1,584,636
5 流動負債	
(1) 一時借入金	1,260,000
(2) 未払金	287,125
(3) 預り金	22,385
流動負債合計	1,569,510

☆資本の部☆

区分	金額
6 資本金	
(1) 自己資本	
イ 固有資本	1,793
ロ 繰入資本	3,119,399
ハ 組入資本	16,850
自己資本合計	3,138,042
(2) 借入資本	
イ 企業債	8,366,289
借入資本合計	8,366,289
資本金合計	11,504,331
7 剰余金	
(1) 資本剰余金	
イ 寄附金	6,500
ロ 国道補助金	610,097
ハ 他会計補助負担金	2,474,373
ニ 受贈財産評価額	39,296
資本剰余金合計	3,130,266
(2) 欠損	
イ 当年度未処理欠損	9,277,991
欠損金合計	9,277,991
剰余金合計	△ 6,147,725

負債資本合計 8,510,752

予定キャッシュフロー計算書 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

キャッシュフロー計算書とは、一定期間の「現金(キャッシュ)の流れ(フロー)」を業務活動・投資活動・財務活動などに区分して表す財務諸表です。会計上の損益の額は現金等の収支と一致しないため、キャッシュフロー(CF)計算書を用いることで損益計算書等では見えてこない現金の流れを知ることができます。

☆①業務活動によるCF☆

区分	金額
入院収入	2,575,177
外来収入	1,046,731
他会計負担金(3条・医業)	130,882
その他医業収入	150,221
沖見診療所外来収益	27,623
給与費支出	△ 2,331,386
材料費支出	△ 425,702
経費支出	△ 947,529
研究研修費支出	△ 16,914
薬品仕入支出	△ 566,032
沖見診療所費用	△ 35,942
小計	△ 392,871
受取利息及び配当金収入	1
患者外給食収入	3,142
他会計補助及び負担金(3条)	360,361
道補助金	0
保育施設収入	4,054
その他医業外収入	43,481
支払利息支出	△ 191,702
患者外給食材料費支出	△ 1,502
保育施設費支出	△ 12,531
消費税及び地方消費税支出	△ 4,460
患者搬送費支出	△ 3,923
その他医業外費用支出	0
小計	196,921
特別利益収入	260,616
特別損失支出	0
小計	260,616
過年度未収金収入	603,908
過年度未払金支出	△ 266,561
小計	337,347
預り金その他収入	750,000
預り金戻出その他支出	△ 750,000
小計	0
予備費(3条)	△ 3,000
小計	△ 3,000
業務活動によるキャッシュフロー	399,013

☆②投資活動によるCF☆

(単位:千円)

区分	金額
有形固定資産の取得による支出	△ 55,970
有形固定資産の売却による収入	0
修学資金・研究資金貸付金	△ 12,280
修学資金・研究資金貸付金償還金	0
繰延勘定(4条退職金)	0
予備費(4条)	△ 1,000
投資活動によるキャッシュフロー	△ 69,250

☆③財務活動によるCF☆

区分	金額
短期借入(一時借入金)による収入	3,000,000
短期借入(一時借入金)の返済による支出	△ 3,200,000
長期借入(企業債)による収入	50,000
長期借入(企業債)の返済による支出	△ 703,425
他会計出資金(4条分)	291,753
他会計負担・補助金(4条分)	233,720
財務活動によるキャッシュフロー	△ 327,952

☆④現金等の増加(減少)額☆ ①+②+③ = 1,811

☆⑤現金等の期首残高☆ 13,056

☆⑥現金等の期末残高☆ ④+⑤ = 14,867

- ・業務活動によるCF:サービスの提供など営業活動から稼ぎ出した現金
- ・投資活動によるCF:固定資産の取得、売却など
- ・財務活動によるCF:借入金や市の繰入など外部からの資金調達

※平成21年度予算では、医療器械等の購入(投資CF)や借入金の返済(財務CF)を、医業収益の増収や経費節減、一般会計からの特別な繰入などで業務CFを4億円ほどのプラスとすることでまかっています。